

墳墓から見た古代の 本州島北部と北海道

Graves in Northern Honshu and Hokkaido in the Ancient Period

藤沢 敦

FUJISAWA Atsushi

- ①はじめに
- ②古墳築造域の変遷
- ③統縄文系の墓
- ④「末期古墳」
- ⑤墳墓を中心に見た異文化間関係と境界
- ⑥おわりに

【論文要旨】

日本列島で古代国家が形成されていく過程において、本州島北部から北海道には、独自の歴史が展開する。古墳時代併行期においては、南東北の古墳に対して、北東北・北海道では統縄文系の墓が造られる。7世紀以降は、南東北の終末期の古墳と、北東北の「末期古墳」、そして北海道の統縄文系の墓という、3つに大別される墳墓が展開する。

南東北の古墳と、北東北の統縄文系の墓と7世紀以降の「末期古墳」の関係については、資料が豊富な太平洋側で検討した。墳墓を中心とする考古資料に見える文化の違いは、常に漸進的な変移を示しており、明確な境界は存在しない。異なる文化の境界は、明確な境界線ではなく、広い境界領域として現れる。このような中で、大和政権から律令国家へ至る中央政権は、宮城県中部の仙台平野以北の人々を蝦夷として異族視する。各種考古資料の分布から見ると、最も違いが不明確なところに、倭人と蝦夷の境界が置かれている。

東北部と北海道では、7世紀以降、北東北の「末期古墳」と北海道の統縄文系の墓という違いが顕在化する。この両者の関係を考える上で重要なことは、「末期古墳」が、北海道の道央部にも分布する点である。道央部では、北東北の「末期古墳」と強い共通点を持ちつつ、部分的に変容した墓も造られる。しかも、統縄文系の墓と「末期古墳」に類似する墓が、同じ遺跡で造られる事例が存在する。さらに、統縄文系の墓の中には、「末期古墳」の影響を伺わせるものもある。道央部では、「末期古墳」と統縄文系の墓は密接な関係を有し、両者を明確な境界で区分することは困難である。

このような墳墓を中心に見た検討から見ると、異なる文化間の境界は、截然としたラインで区分できない。このことは、文化の違いが、人間集団の違いに、簡単に対応するものではないことを示している。

【キーワード】古墳、統縄文系の墓、末期古墳、文化の変移、境界